

## 第4章 本県の森林・林業・木材産業等が目指す将来像

本県が目指す森林・林業・木材産業等の将来像を100年後である2118（令和100）年を念頭に置きつつ、2040（令和22）年頃の姿として示します。

### 第1節 森林の公益的機能を持続的に発揮

○ 荒廃した森林における間伐や伐採後の再造林、自然条件や社会的条件に応じた針広混交林化や広葉樹林化等への誘導など、適切な森林の整備・保全により、多様な林齢や樹種からなる健全な森林が広がっており、きれいな空気や豊かな水を生み出しています。

また、齢級構成の平準化に向けて、森林の若返りが図られ、森林の二酸化炭素吸収機能が高まっています。

その結果、これらの森林は、県土の保全や水源涵養、地球温暖化防止、生物多様性の保全などの公益的機能を高度に発揮し、豊かで快適な県民生活をもたらしています。

○ 事前防災・減災対策として実施している治山施設の整備や流木対策が進み、山地災害に強い県として、安心・安全な県民生活を支えています。

○ 県有林の森林公園や森林文化の森、身近な民有林などで展開されている、森林レクリエーション、森林セラピー、森林環境教育などの活動に加え、健康・観光・教育等様々な分野と連携した森林サービス産業\*が発展しています。

これにより、森林空間の利活用が更に進み、森林の癒し効果を求めて、県内外から多くの方々が訪れています。

#### 【森林の持つ公益的機能】

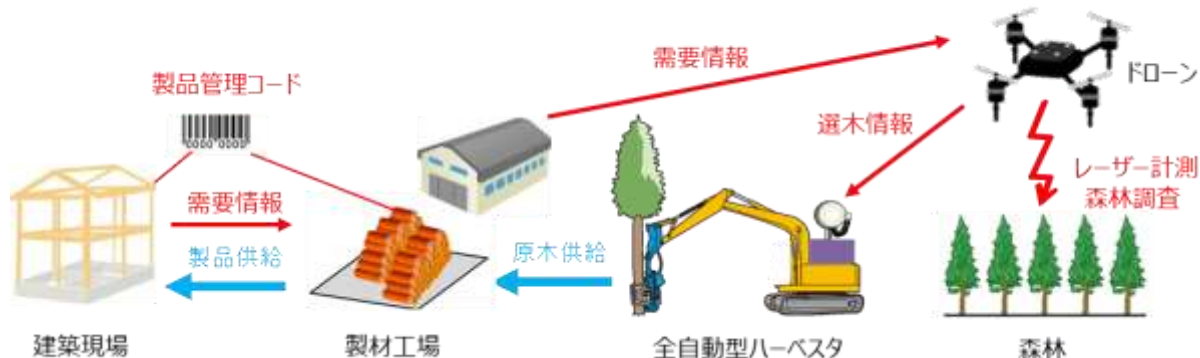


## 第2節 林業の成長産業化を実現

- ICTを活用した低コストで効率的に搬出を行うスマート林業の定着や人工林資源が充実した区域への重点的な路網整備等を通じた施業集約化の進展、高度な知識と技術を有する林業就業者の育成等により、林業の生産性が向上しています。
- 針葉樹人工林は、齢級構成の平準化が進展しており、木材が計画的かつ安定的に生産されているとともに、「伐る、使う、植える、育てる」といった、人工林資源の循環利用による持続可能な林業経営が展開されています。
- 品質及びデザイン性が高いFSC認証材製品をはじめとした県産木材製品が安定的に供給されているとともに、東京圏や海外などへの新たな販路の確立、公共建築物等への積極的な木材利用等による需要拡大が進んでいます。

これにより、新たな雇用の創出や林業就業者の所得向上など、地域経済全体が活性化し、豊かさが実感されています。

### 【スマート林業のイメージ】



(県総合計画推進会議 農林業分科会作成)

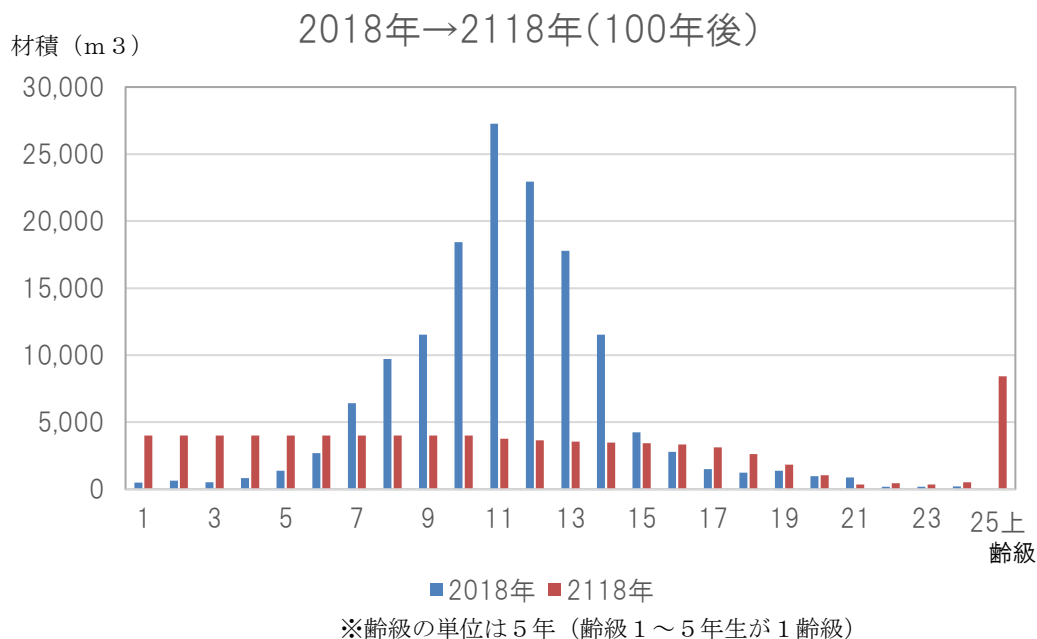
### 【健全で多面的機能を発揮する森林と人工林資源の循環利用のイメージ】



(出典：林野庁資料)

## 【100年後の目指すべき森林のイメージ】

(平準化のイメージ)



- 本プランに基づく取り組みにより、高齢級に偏った年齢構成が、100年後にはほぼ平準化し、森林資源の循環利用が図られています。

## (森林誘導による目標とする森林の状態のイメージ)

※100年後の望ましい姿を「指向する森林の状態」として参考に示し、これに到達する過程の概ね10年後、20年後の森林の状態を目標として提示しています。

	2018 (平成30)年	目標とする森林の状態		指向する 森林の状態 2118年
		2029 (令和11)年	2040年	
森林面積(千ha)				
育成単層林	146	140	135	80
育成複層林	7	14	22	90
天然生林	168	167	164	151
除地・その他	22	22	22	22
合計	343	343	343	343

- 本県の森林が望ましい姿へ誘導され、育成単層林<sup>※</sup>、育成複層林<sup>※</sup>、天然生林<sup>※</sup>ごとに期待される機能を果たすことにより、森林資源が有効に活用されつつ、多面的機能が高度に発揮されています。